

山形市銅町「小野田商店」考 三つの商標・スタンプ その 2

木口 隆一



左は昭和3年夏の小野田工場。左から二人目が甚太郎である。職人たちの法被には「銅町長谷川」「小野田商店」とある。

甚太郎は人物肖像も鋳造している。才助の才能と技を受け継いだのだろう。

明治39年から才助が所有した銅町161番（元庄司清助宅）に、大正13年まで甚太郎が住んでいた。甚太郎の三女と二男はここで生れている。その後一家は銅町156番に移った。

憶測だが、才助は酒田大仏を製作するために、平左衛門家とは別に工場を求めたのかもしれない。この大仕事の結末は多分赤字であることを承知の上で引受けたのではなかっただろうか。本家に累が及ばないようにとの配慮があったのかもしれない。

三 6代長谷川長兵衛（甚吉）

長谷川長兵衛家は長谷川甚六家の分家だったが本家を継ぎ、銅町205番に工場を持っていた。

5代長兵衛の長男甚吉が（○井）福井商店、長谷川長兵衛家を継ぐが、現存するスタンプによって、弟甚太郎と同じく小野田商店の名で製造販売していた時期があることがわかる。

おそらく60才に差し掛かっていた5代長兵衛（平治郎）が、11代小野田友助の意を受け、30歳前の息子たちに実家の小野田工場を継がせたのであろう。

